

式 辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、鴨川を吹き渡る風にも春の気配が感じられる、今日の佳き日に、京都府立鴨沂高等学校第71回卒業証書授与式を挙げていただきましたところ、多数の御来賓並びに保護者の皆様の御臨席を賜りましたことは、卒業生はもとより、本校の生徒及び教職員一同にとりまして、この上ない慶びとするところであります。高段からではございますが、心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

ただいま、237名の生徒の皆さんに、高等学校の全ての課程を修了した証として、栄えある卒業証書を授与いたしました。皆さん、卒業おめでとう。保護者の皆様におかれましては、たくましく成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと拝察いたします。今日に至るまでの並々ならぬ御労苦に敬意を表しますとともに、改めてお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

今年、「平成」の時代を締めくくり、次の新しい時代が幕を開けます。本校にとりましても、約80年ぶりとなる新校舎が完成し、定時制を閉じるという、大きな節目の年となりました。このような歴史の転換期に、皆さんを社会に送り出すことには感慨深いものがあります。

本校は、明治5年の「新英学校及び女紅場」創設時には、近代日本の草創期にあつて、当時のグローバル化への対応と女子教育の充実を目指した我が国最先端の教育機関でありました。現存する九条家ゆかりの御門やお茶室はその当時から継承してきたものです。明治33年に現在地に移った時も、御門や茶室などの貴重な建造物を移築するとともに、木造建築の粋を集めた重厚な校舎でした。前回の校舎建設においても、モダニズムデザインを基調とした和洋折衷の格調高い校舎、室内温水プールをはじめ、当時としては他に類を見ない優れた教育施設でした。そして、この度完成した新校舎は、旧校舎の古き良きものを可能な限り保存・継承するとともに、最先端の施設・設備を融合させた、全国にも誇れるものになりました。このように、校舎改築の変遷を見ましても、本校に対する府民の期待の大きさを強く感じざるを得ません。皆さんにとってはわずか半年だけの生活でしたが、これだけの素晴らしい教育環境の中で暮らすことができ、少しは満足してもらえたのではないかと思います。

本校はこの度の新校舎完成に合わせて、学校改革を進めて参りました。その中で、皆さんは、規律ある生活を送り、学力を伸ばし、部活動や学校行事・地域活動にも積極的

に取り組み、生活の乱れや問題行動・中途退学がほとんどない、安心安全で落ち着いた雰囲気醸成し、多方面にわたって目覚ましい成果を上げました。勉強や部活動、自らの生き方や友人関係に悩むなど、幾多の困難があったでしょうが、様々な試練を乗り越え、自立心とたくましさも身に付けました。皆さんは、本校の新時代のスタートを飾るにふさわしい、確かな足跡を刻んでくれました。

本校の教育方針は、「世界平和を希求し、すべての人々が幸福になりうる社会をめざして、事実に基づいて真理を追究し、それに従って実践しようとする人間をつくる。」と定められています。これは、昭和23年の高校創設以来、継承してきた不変の方針です。本校は、女紅場の時代から、社会や国家の繁栄、世界の平和と幸福に貢献する人間を育成することを使命として貫いてきた学校であり、このことがまさしく、不易なる鴨沂の精神なのです。

私は、皆さんが入学して以来、何事にもチャレンジする強い心、自信と誇り、世のため人のために力を尽くす覚悟を持って欲しいと語り続けてきました。また、周囲に流されることなく、何が本当で何が正しいのかを自ら判断し、行動してほしいとも言ってきました。それは、本校で育ち、巣立っていく皆さんには、鴨沂の精神を受け継ぐ者として、母校に対する誇りと確かな成長を遂げた自己への自信を持ち、行く手に立ちはだかる様々な課題や試練に果敢にチャレンジし、たくましく生き抜いてほしいと願ったからです。

これからのグローバルな社会を心豊かに生き抜くためには、「多様性」への対応と「心を磨く」ことが大変重要です。人もものも一層多様化していく中で、個性豊かで多様な人間同士が、互いの違いを認め合い、支え合い、活かし合い、多様性から価値を見出す組織や社会を形作ることが大切になってきます。そうした中で、心を磨き、自らが幸せに生き抜く力を身に付けるとともに、世のため人のために力を尽くせる人間になってください。皆さんの未来に幸多かれと祈ります。

結びに、本日御臨席を賜りました御来賓の皆様、並びに保護者の皆様には重ねて感謝を申し上げます。本校に対しまして、今後なお一層の御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の御健勝と卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝し、式辞といたします。

平成31年3月1日

京都府立鴨沂高等学校

校長 藤井 直